

○基本計画の名称: 姫路市中心市街地活性化基本計画

○作成主体: 兵庫県姫路市

○計画期間: 令和2年4月から令和7年3月まで(5年)

1. 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

1-1 姫路市の概況

(1) 概要

本市は、人口約53万人、面積約534km²を擁する中核市であり、人口は兵庫県下で神戸市に次ぐ規模で、面積は神戸市にほぼ匹敵する大きさとなっている。

市域の中心部にわが国で初めて世界文化遺産に登録された姫路城を擁し、戦国時代以降、城下町として今日の発展の基礎を築いてきた。明治初期の一時期には、姫路県、飾磨県の県都となり、その後、周辺市町村との合併を行いながら発展を続け、戦災からの復興や臨海部での工業地帯の形成等により、常に播磨地域の中核都市としての役割を担い、平成8年4月には中核市に移行した。

国際観光都市として、姫路城をはじめ、西の比叡山と呼ばれる書写山円教寺、灘のけんか祭りなどで名高い播州の秋祭り等の観光資源により、国内はもとより海外からの観光客も多い。

さらに、臨海部をはじめとする高い技術力を有する産業が集積し、播磨科学公園都市の母都市である等産業都市としての性格も併せ持つ。

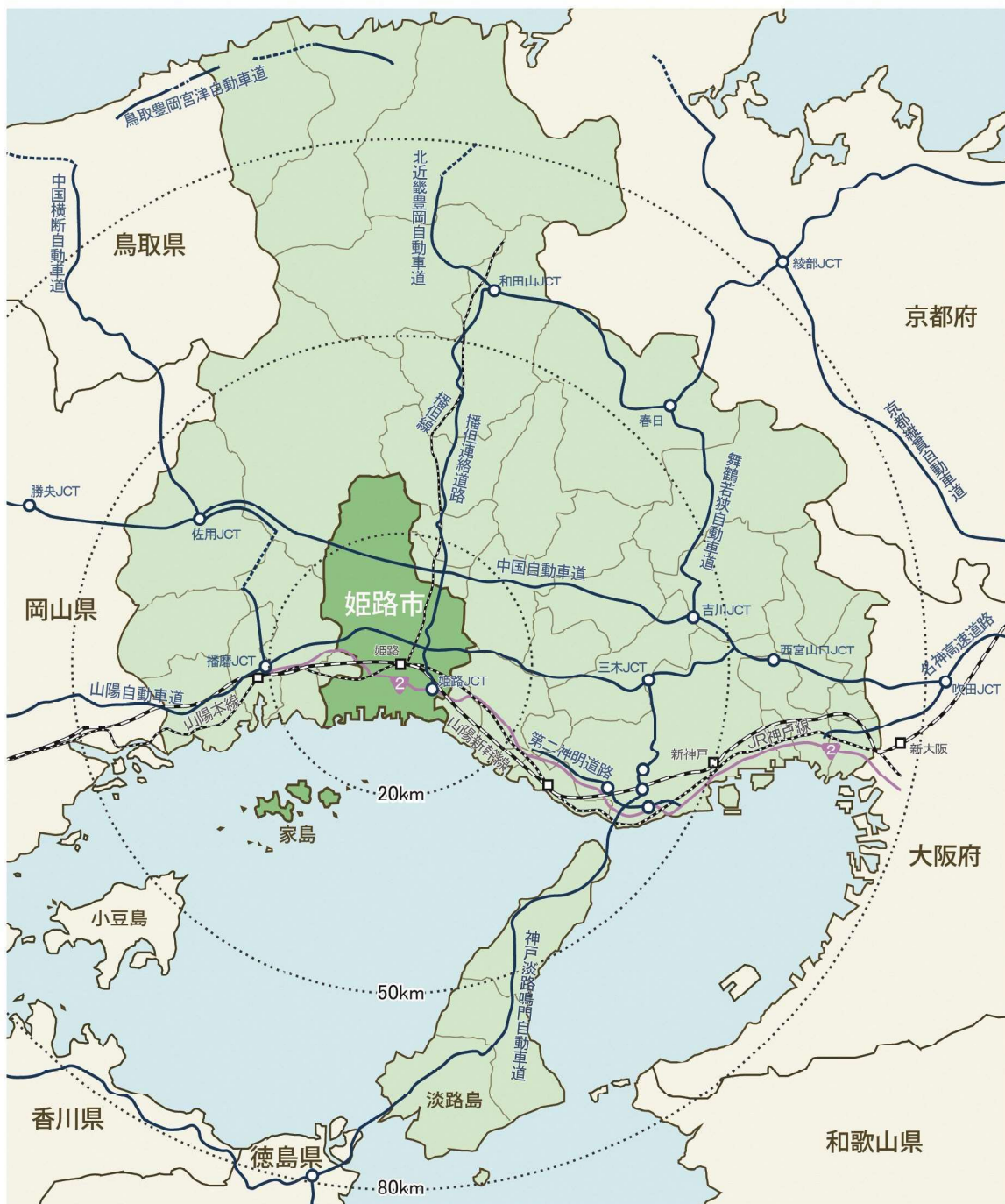


●姫路市中心部

(2)位置・地形等

本市は、兵庫県西部に広がる播磨平野の中央に位置し、神戸市から西へ約50km、岡山市から東へ約70kmの距離にある。東京～大阪～九州を結ぶ国土軸上に位置し、南は播磨灘に面し、中央の平野部を経て市域北部は中国山地の東端にあたる山地になっている。

市内を南北方向に市川、夢前川が縦断し、両河川に挟まれた平野部に主要な都市機能が集積している。交通施設は、国土軸上に位置することから、東西方向にわが国の根幹をなす山陽自動車道、中国縦貫自動車道、JR山陽新幹線・山陽本線をはじめ、国道2号等が市域を横断している。



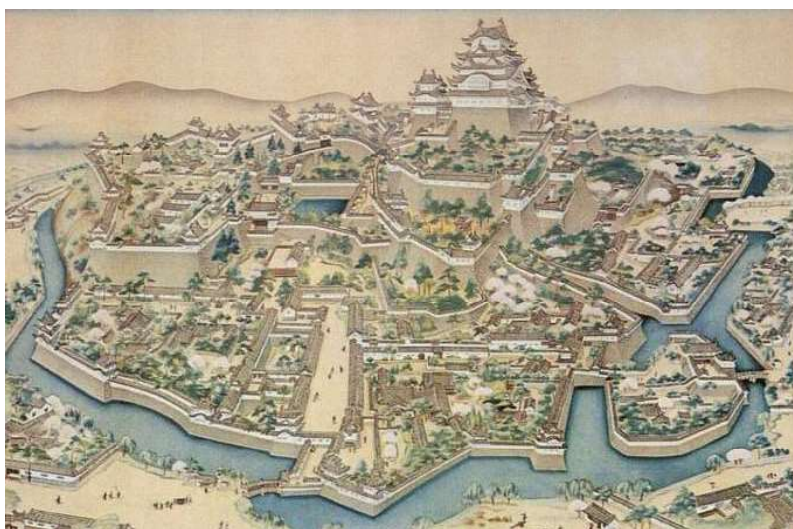
●姫路市の位置

(3)沿革

姫路が播磨地域の中心になったのは、大化の改新の後(7世紀)に播磨国の国府が置かれたことに始まり、さらに8世紀中ごろに聖武天皇の勅命で国分寺が建立され、また、広峯神社や増位山随願寺等もこの時代に創建された。

室町時代になって播磨の豪族赤松氏によって姫山に砦が築かれ、その後、羽柴秀吉が三層の天守を持つ姫路城を築城し、関ヶ原の合戦後に、池田輝政が現在の連立式の天守を持つ姫路城を築き上げた。

この築城は、戦国期が完全に終息していない中、西日本の外様大名の反乱に備えるとともに、大坂城を牽制するために防御機能を重視した城郭・城下町構造をとったものである。これは、城郭のみではなく、城下町全体を防御施設と捉え、内曲輪、中曲輪、外曲輪を配し、城下町全体を堀で囲う「総構」の構造をとったもので、江戸城、大坂城、小田原城、伏見城にもみられる。



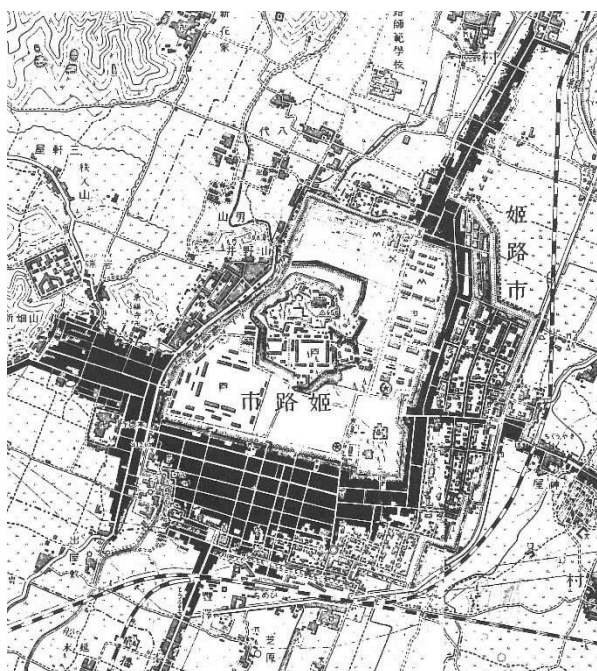
●江戸時代の姫路城(内曲輪)



●姫路城の内曲輪、中曲輪、外曲輪

明治期の廃藩置県により設置された姫路県や、その後の飾磨県時代においては県庁所在地となっていたが、明治9年に兵庫県に編入された。明治21年には現在のJR山陽本線である山陽鉄道姫路駅が開業し、翌22年にはわが国の市制施行とともに姫路市が誕生した。その後、周辺市町村との合併を行いながら発展を続けてきたが、太平洋戦争による空襲を受け、姫路城は被害を免れたものの、市街地の大部分を焼失する壊滅的な打撃を受けた。

戦後、周辺市町村との合併を繰り返しつつ戦災からの復興を図り、昭和30年には戦災復興土地区画整理事業によって大手前通りをはじめとする現在の中心市街地の姿が形成され、昭和43年には人口が40万人を突破した。その後、昭和47年の山陽新幹線開通、平成5年12月の姫路城世界文化遺産登録、平成8年の中核市移行等を経て、平成18年3月に家島町、夢前町、香寺町、安富町との合併を行い、人口約53万人の現在の姫路市となり、播磨地域における中枢性がより高まった。



●明治30年代の姫路市中心部



●昭和36年の姫路市中心部

平成26年度に制度化された「地方中枢拠点都市」制度は、国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」において「連携中枢都市」制度に引き継がれたが、平成27年度からの制度の本格実施に向けて、本市は国から選定された連携中枢都市のモデル都市として、播磨圏域の市町や関係団体と協力し、播磨圏域経済成長戦略の策定や連携事業を実施している。その後も毎年、播磨圏域成長戦略会議を姫路市が開催しており、近隣の7市8町との連携を深めている。

このように、本市は、県下有数の都市機能及び、交通の一大結節点である姫路駅、世界文化遺産・姫路城という2つの核を有し、播磨地域の経済的、社会的な中心としての役割を果たしている。中心市街地の活性化は、本市のみならず播磨圏域の持続的発展に必要な施策といえることができる。

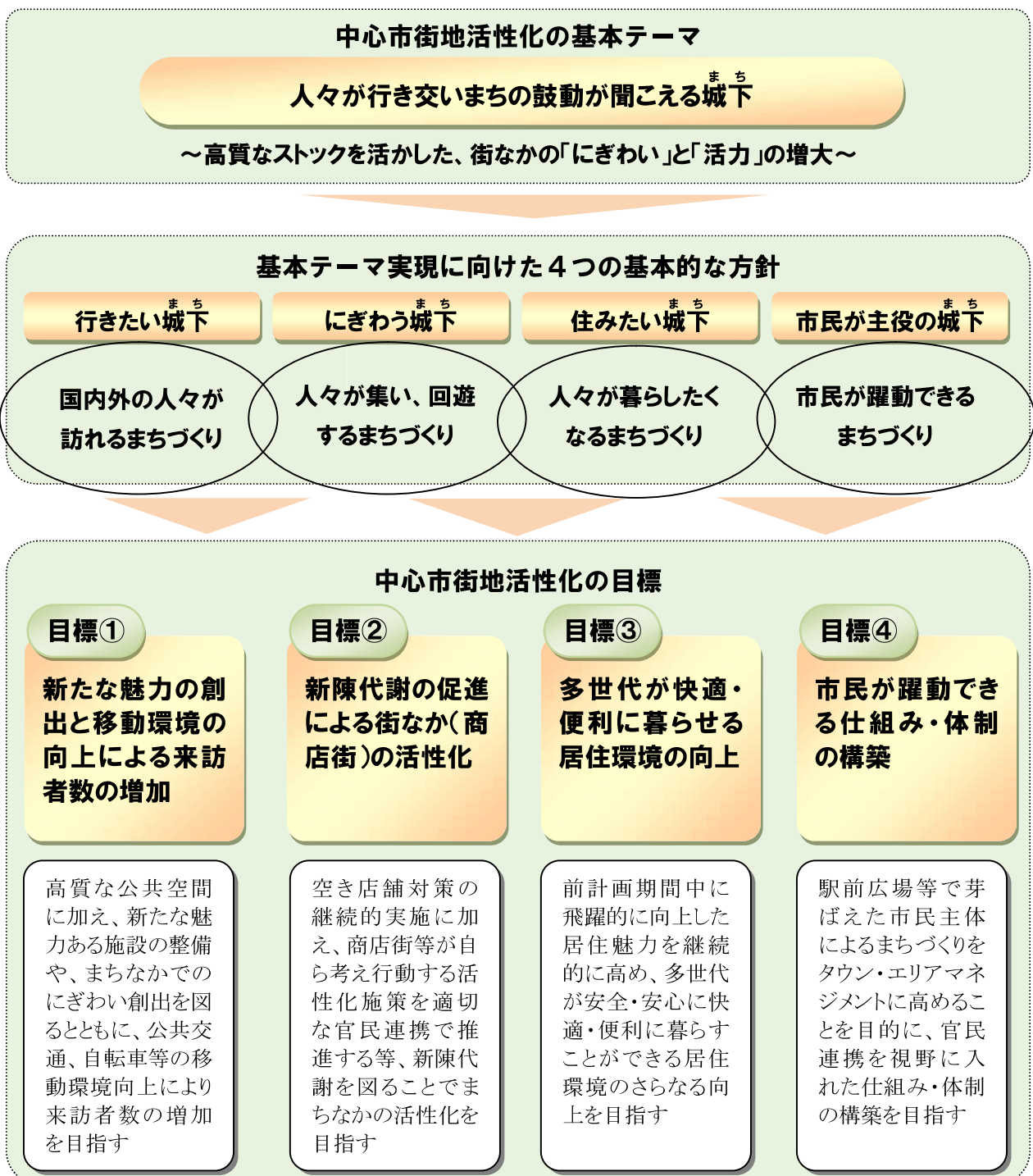
1-2 前計画の取組み・検証

(1) 前計画の概要

本市は、姫路駅を中心とするエリア約222haを対象区域に、平成27年4月から令和2年3月までを計画期間とする「姫路市中心市街地活性化基本計画」(以下、「前計画」)を策定した。

ここでは、新たな「姫路市中心市街地活性化基本計画」(以下、「新計画」)策定にあたり、前計画の評価・検証を行う。

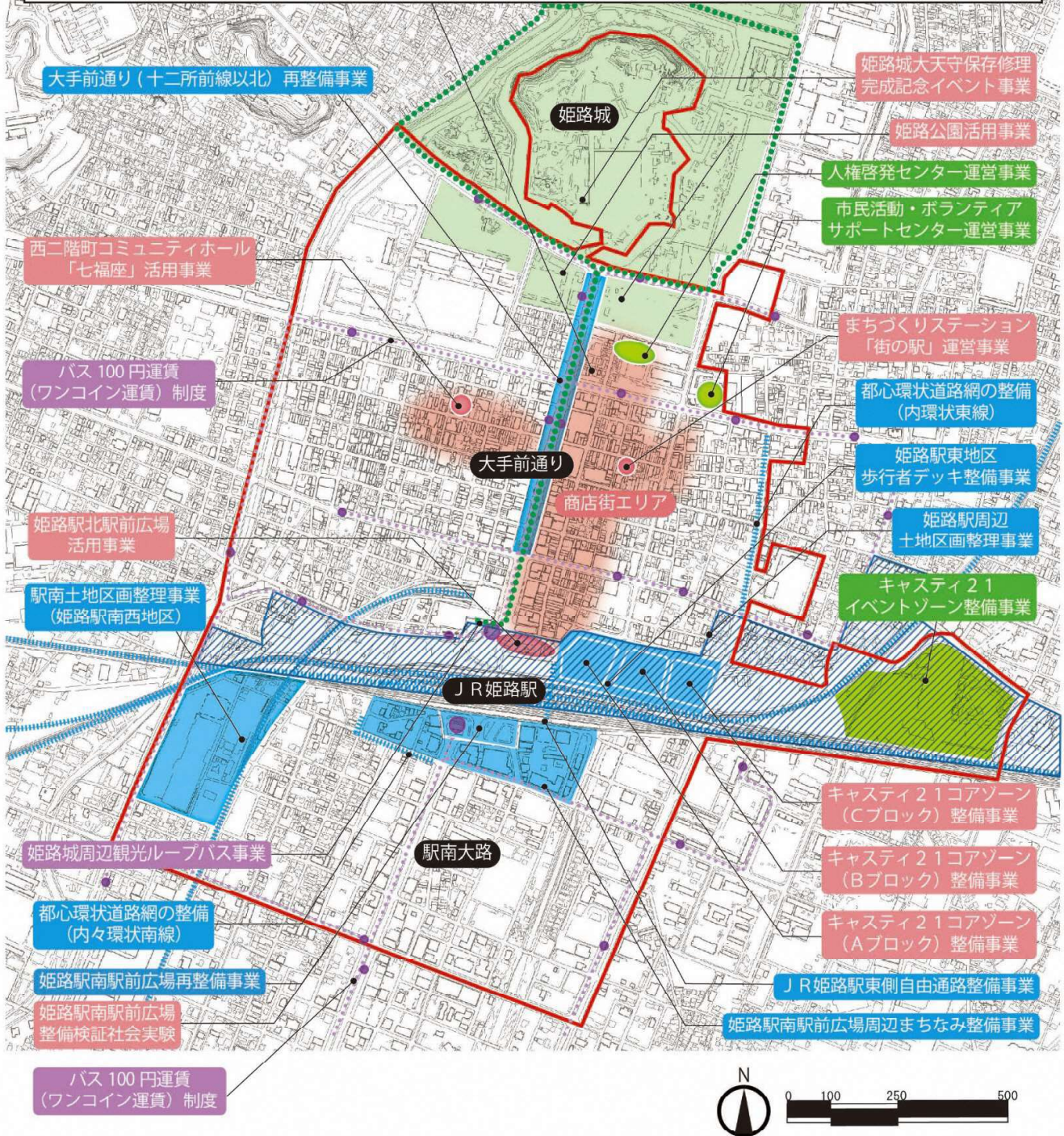
前計画では「人々が行き交いまちの鼓動が聞こえる城下(まち)～高質なストックを活かした、街なかの「にぎわい」と「活力」の増大～」を基本テーマに掲げ、この実現に向けて4つの基本方針と4つの目標を設定し、目標に沿った事業展開を実施することにより活性化を図った。



事業実施箇所図 基本計画区域：約 222ha

【商店街エリア（街なか）で実施する事業】

- 街なかにぎわいイベント事業
- 中心地市街地商店街空き店舗対策事業
- 商店街整備事業
- 商店街にぎわい創出事業
- 街なか観光事業
- 街なか情報発信事業
- 街なか起業家支援事業
- 街なかマナーアップ向上事業
- 公衆無線 LAN 導入社会実験
- タウン・エリアマネジメントを視野に入れた仕組み・体制づくり
- 郊外農林水産業と連携した街なか活性化事業



【位置が特定できない事業】

- 観光ボランティアの充実
- 電線類地中化事業
- 優良建築物等整備事業
- 公共交通バリアフリー化促進事業（バス）
- 姫路城と調和した景観の形成
- 案内サイン強化事業
- 自転車利用環境整備事業
- コミュニティサイクル社会実験事業
- コミュニティサイクル事業
- バスロケーションシステムの活用

(2) 事業の実施状況

前計画では市街地の整備改善、都市福利施設の整備、まちなか居住の推進、経済活力の向上、公共交通機関の利便増進等を目的とする計43事業に取り組んだ。

このうち、平成30年度までに完了した事業は8事業、実施中は35事業、中止事業と未実施事業はない。

完了した主な事業は、「キャストィ21コアゾーン(Aブロック)整備事業」「キャストィ21コアゾーン(Bブロック)整備事業」「キャストィ21コアゾーン(Cブロック)整備事業」「姫路駅南駅前広場再整備事業」「姫路城大天守閣保存修理完成記念イベント事業」等である。

実施中の35事業のうち、ソフト事業に関しては現在も継続して実施しており、ハード事業についても予定通り進捗している。

■前計画記載事業の主な分類別進捗状況

	記載 事業数	進捗状況			
		完了	実施中	中止	未実施
市街地の整備改善	10	3	7	0	0
都市福利施設の整備	5	1	4	0	0
まちなか居住の推進	1	0	1	0	0
経済活力の向上	18	3	15	0	0
公共交通機関の利便増進等	9	1	8	0	0
計	43	8	35	0	0

■前計画記載事業の進捗状況

	事業名	事業主体	事業期間	進捗状況
市街地の整備改善				
1	駅南土地地区画整理事業(姫路駅南西地区)(土地 区画整理事業)	姫路市	H19～R3	実施中
2	姫路駅東地区歩行者デッキ整備事業	姫路市	H26～H30	完了
3	大手前通り(十二所前線以北)再整備事業	姫路市	H27～R1	実施中
4	姫路駅南駅前広場再整備事業	姫路市	H27～H30	完了
5	姫路駅周辺土地地区画整理事業	姫路市	H1～R3	実施中
6	都心環状道路網の整備	姫路市	H21～R3	実施中
7	JR 姫路駅東側自由通路整備事業	姫路市	H15～H30	実施中
8	電線類地中化事業	姫路市	H21～R3	実施中
9	姫路駅南駅前広場整備検証社会実験	姫路市	H27	完了
10	姫路駅南駅前広場周辺まちなみ整備事業	姫路市	R1～R3	実施中
都市福利施設の整備				
11	キャストィ21 イベントゾーン整備事業	姫路市	H27～R2	実施中
12	キャストィ21 コアゾーン(Cブロック)整備事業	(学)神戸滋慶学園	H26～H30	完了
13	街なかマナーアップ向上事業	姫路市	H27～R1	実施中
14	市民活動・ボランティアサポートセンター運営事業	姫路市	H27～R1	実施中
15	人権啓発センター運営事業	姫路市	H27～R1	実施中
まちなか居住の推進				
16	優良建築物等整備事業	民間	H27～R1	実施中
経済活力の向上				
17	キャストィ21 コアゾーン(Bブロック)整備事業	エミス(株)	H26～H27	完了
18	中心市街地商店街空き店舗対策事業	姫路市、姫路商工会議所、 商店街等	H13～R1	実施中
19	商店街にぎわい創出事業	姫路市、商店街、民間等	H27～R1	実施中
20	姫路公園活用事業	姫路市	H27～R1	実施中
21	街なか起業家支援事業	姫路市	H27～R1	実施中
22	タウン・エリアマネジメントを視野に入れた仕組み・ 体制づくり	姫路市	H27～R1	実施中
23	キャストィ21 コアゾーン(Aブロック)整備事業	マルイト(株)	H26～H29	完了
24	街なかにぎわいイベント事業	姫路市、商店街、市民団体等	H27～R1	実施中
25	姫路駅北駅前広場活用事業	姫路市、市民団体、商店街等	H27～R1	実施中
26	西二階町コミュニティホール「七福座」活用事業	西二階町商店街振興組合	H21～R1	実施中
27	まちづくりステーション「街の駅」運営事業	姫路商工会議所	H27～R1	実施中
28	街なか情報発信事業	商店街、民間、市民団体等	H27～R1	実施中
29	観光ボランティアの充実	姫路市、姫路観光コンベン ションビューロー等	H27～R1	実施中

	事業名	事業主体	事業期間	進捗状況
30	商店街整備事業	姫路市、姫路商工会議所等	H27～R1	実施中
31	姫路城大天守保存修理完成記念イベント事業	姫路市	H27	完了
32	街なか観光事業	姫路市、姫路観光コンベンションビューロー、市民団体等	H27～R1	実施中
33	郊外農林水産業と連携した街なか活性化事業	姫路市、民間等	H27～R1	実施中
34	公衆無線 LAN 導入社会実験	姫路市	H26～R1	実施中
公共交通機関の利便増進				
35	コミュニティサイクル社会実験事業	姫路市	H26～H27	完了
36	コミュニティサイクル事業	姫路市	H28～R1	実施中
37	姫路城周辺観光ループバス事業	神姫バス(株)	H10～R1	実施中
38	バス 100 円運賃(ワンコイン運賃)制度	神姫バス(株)	H13～R1	実施中
39	公共交通バリアフリー化促進事業(バス)	姫路市	H6～R1	実施中
40	自転車利用環境整備事業	姫路市	H20～R1	実施中
41	案内サイン強化事業	姫路市	H27～R1	実施中
42	姫路城と調和した景観の形成	姫路市	H9～R1	実施中
43	バスロケーションシステムの活用	神姫バス(株)	H26～R1	実施中

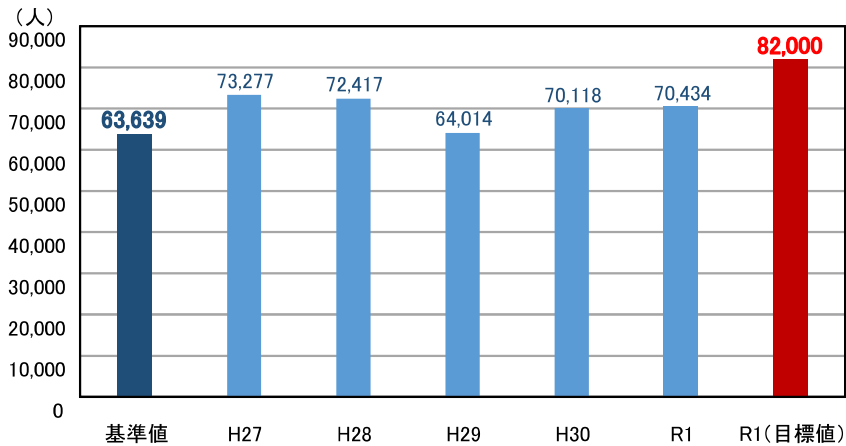
(3)前計画の目標積算事業の評価

前計画の目標値積算に関わる事業の達成状況について、以下に評価・分析を行う。

①歩行者・自転車通行量

◆数値目標の達成状況

前計画は、基準値63,639人/日(平成22～25年度平均値)に対し、目標値を82,000人/日(令和元年度)と設定している。令和元年度(平成31年4月29日)は70,434人/日で、基準値に対して約11%の増加となり、目標値に対して85.9%の達成値となっている。



●歩行者・自転車通行量の実績値・数値目標

■歩行者・自動車通行量の達成状況



6,795 人/日(約 11%)増加

◆前計画の目標積算事業の評価

基準値より約11%増加した要因として、姫路城大天守保存修理事業完了後の登閣者数の増加、キャスティ21コアゾーン整備事業による姫路駅周辺の新しい商業施設の開店に伴う集客効果のほか、コミュニティサイクル事業、姫路駅北駅前広場活用事業等の主要事業が順調に進捗していることによる増加が考えられる。

平成31年4月29日(休日)の歩行者・自転車通行量調査によると、大手通り・東(みずほ銀行西)で、平成30年4月29日から30%の増加、西二階町商店街では18%の増加となっており、こうした大幅な増加地点が全体の歩行者・自転車通行量を増加させている。

目標値を達成できなかった要因として、御幸通商店街(カフェ・ド・クリエ西)と二階町商店街(POSH CLUB南)で減少しており、この地点に近いヤマトヤシキ姫路店が平成30年2月に閉店した影響が考えられる。

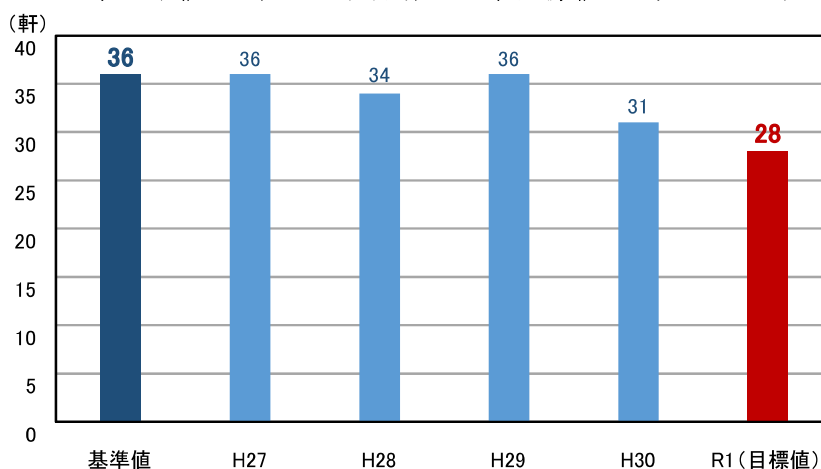
また、平成27年3月27日にグランドオープンした姫路城による集客効果が落ち着きつつあり、継続的な増加につながらなかったことが考えられる。

以上から、駅周辺のキャストィ21コアゾーン整備事業等により増加した来街者や居住者を、商店街へ誘引する等回遊性の向上につなげることができなかったことが要因と推察され、回遊性の創出に向けて、引き続き取り組んでいくことが求められる。

②空き店舗数

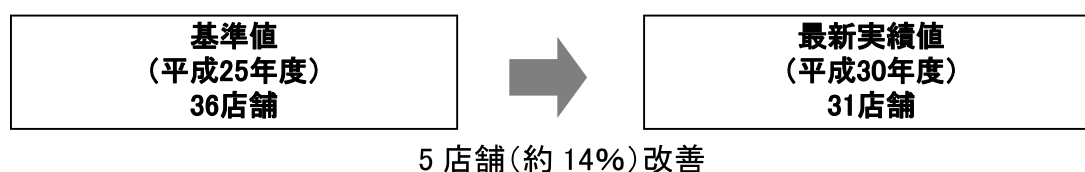
◆数値目標の達成状況

前計画では、基準値36店舗に対し、目標値を28店舗(令和元年度)と設定している。平成30年度は31店舗となっており、基準値に対して5店舗減少し、目標値に対して90.3%となっている。



●空き店舗数の実績値・数値目標

■空き店舗数の達成状況



◆前計画の目標積算事業の評価

空き店舗数の目標積算に関わる事業において、中心市街地商店街空き店舗対策事業により、創業者に対する家賃等の一部を支援しており、制度を活用した新規出店数は平成27年度8店舗、平成28年度9店舗、平成29年度5店舗、平成30年度11店舗と、毎年一定数の店舗が立地している。

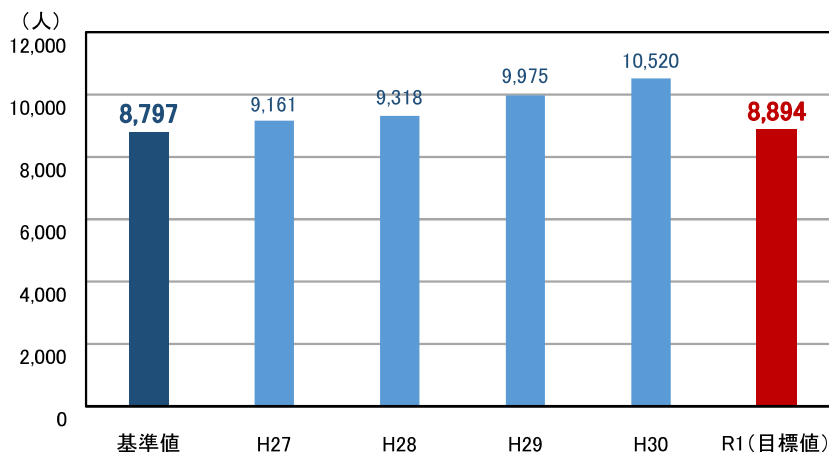
さらに、街なか起業家支援事業による商店街の魅力づくりに向けた取組みにより、平成27年度2名、平成28年度3名、平成29年度3名、平成30年度4名の創業者に対して支援を実施している。これらにより、平成30年度の空き店舗は、31店舗にまで減少したと考えられる。

一方、空き店舗数は改善しているが、退店数が新規出店数を上回る年度もあることから、目標値に届いていないと考えられる。

③居住者数

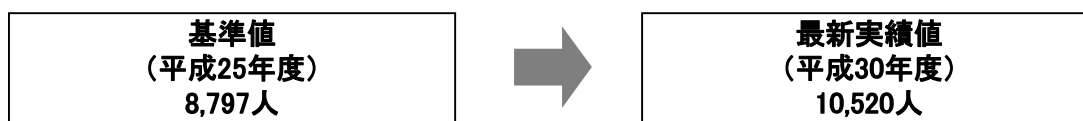
◆数値目標の達成状況

前計画では、基準値8,797人(平成25年度)に対し、目標値を8,894人(令和元年度)と設定している。平成30年度は10,520人となっており、平成27年度には目標値を達成し、その後も引き続き増加している。



●居住者数の実績値・数値目標

■居住者数の達成状況



1,723人(約20%)増加

◆前計画目標積算事業の評価

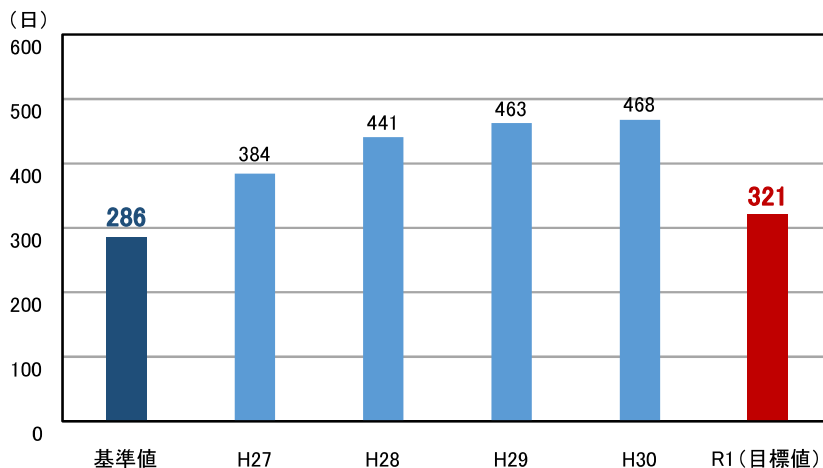
目標値達成の要因として、姫路駅周辺土地区画整理事業のほか、キャスティ21コアゾーン整備事業等の姫路駅周辺整備事業の進捗により、中心市街地の魅力が向上することで、民間マンションの建設が増加していることが考えられる。

民間マンションの建設については、平成30年度に実施した中心市街地マンション居住者意識調査から、子育て世帯や夫婦のみの世帯が多く、「生活利便性の充実」や「仕事上の都合」、「姫路駅が近い」ことを理由にあげる割合が高くなっている。これは、前計画記載事業の成果による公共交通の利便性向上や生活利便性の高い商業施設の整備等、中心市街地の魅力の高まりが多世代居住者の流入の要因と考えられる。

④公共空間利活用のルールのもとで行われるイベント実施日数

◆数値目標の達成状況

前計画では、基準値286日/年に対し、目標値を321日/年(令和元年度)と設定している。平成30年度で468日/年となっており、既に目標値を達成している。



●公共空間利活用のルールのもとで行われるイベント実施日数の実績値・数値目標

■公共空間利活用のルールのもとで行われるイベント実施日数の達成状況



182日/年(約64%)増加

◆前計画の目標積算事業の評価

目標値達成の要因として、姫路駅北駅前広場の利活用が定着し、週末だけでなく平日においても、多彩なイベントが行われ、高い稼働率で広場の活用が図られていることが考えられる。

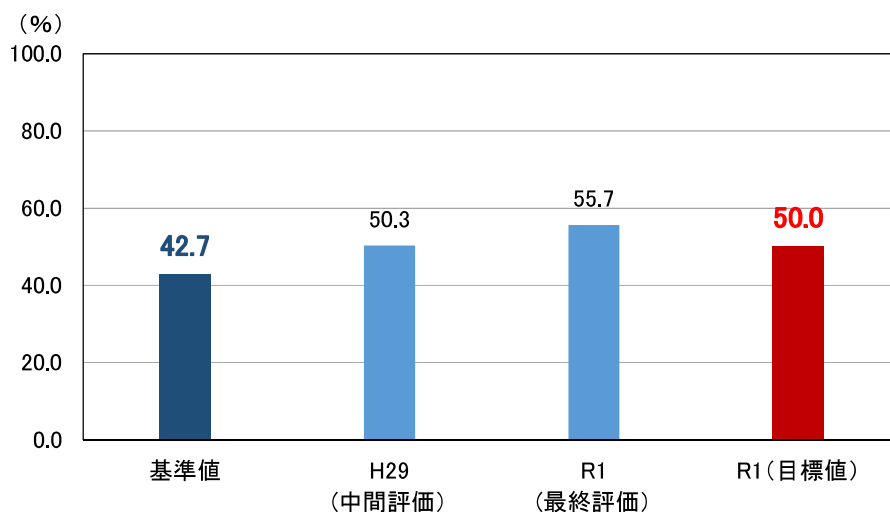
姫路駅北駅前広場は、市民・観光客の憩いとくつろぎの場であるとともに、イベント等で活用できる空間であることが広く周知されてきている。また、第3回全国まちなか広場賞で「大賞」を受賞し、知名度も高くなったことで、年間を通じて多彩なイベントが行われ、平成28年度304日、平成29年度317日、平成30年度324日と、高い稼働率で広場の活用が図られている。その他、商店街や大手前公園も順調に活用がされている。

また、大手前通り(十二所前線以北)再整備事業では、南工区は平成30年9月に完成し、北工区は、令和元年度の事業完了に向け工事を進めている。南工区の工事完了後、整備された歩道空間における利活用を進めるべくその仕組みづくりが進んでおり、今後のさらなる公共空間の利活用が期待されている。

⑤補完目標: 中心市街地に対する市民の評価

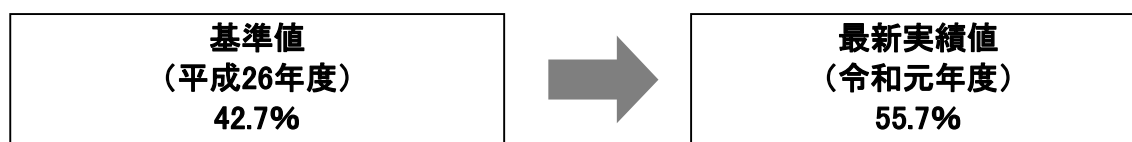
◆数値目標の達成状況

前計画では、中心市街地活性化に関するアンケートから「中心市街地に対する市民の満足度」を数値目標として定めており、基準値42.7%に対し、目標値を50.0%(令和元年度)と設定している。令和元年度は、55.7%となっており、目標値を達成している。



●中心市街地に対する市民の評価の実績値・数値目標

■中心市街地に対する市民の評価の達成状況



13ポイント(約30%)増加

◆前計画の目標積算事業の評価

目標達成の要因として、キャストィ21コアゾーン整備事業等の姫路駅周辺整備事業のほか、大手前通りの再整備等の進捗により、中心市街地の魅力が向上することで、市民の満足度が増加していることが考えられる。

市民の満足度については、令和元年度に実施した中心市街地活性化に関するアンケートから、満足している理由について、「食料品や日用品の買い物の利便性」「緑や道路・街並みの美しさ」「交通の利便性」の割合が高くなっている。これは、前計画記載事業の生活利便性の高い商業施設の整備、大手前通りの再整備、公共交通の利便性向上等の成果と考えられる。

1-3 中心市街地の現状分析

(1)中心市街地の既存ストックの状況分析と有効活用の検討

①歴史的・文化的資源

中心市街地には、姫路はもとよりわが国を代表する歴史的・文化的資源である世界文化遺産・姫路城が存在し、登閣者は年間約159万人(平成30年度)となっている。姫路城大天守保存修理工事が完了した平成27年度以降は、登閣者数が大幅に増加したが、その後減少傾向となっている。しかし、姫路城の外国人観光客数は近年大幅に増加しており、平成30年度には年間約38万7千人に達し過去最高を記録している。中でも台湾からの観光客が最も多く、欧米からの観光客も増えてきている。

姫路城の周辺には、姫路城西御屋敷跡庭園・好古園や、兵庫県立歴史博物館、姫路市立美術館、姫路市立動物園、日本城郭研究センター等が立地しており、姫路城周辺の主要観光施設における入込客数は年間約262万人(平成30年度)となっている。

このほかにも中心市街地とその周辺には、多くの神社仏閣等多様な歴史的・文化的資源が存在し、観光資源としてだけではなく、祭りや年中行事によって地域住民等の交流の場として活用されているものも多く、中心市街地への集客や地域の活性化に寄与している。

これらの豊かな歴史的・文化的資源を活用し、観光集客はもとより、商業とのタイアップによる新たな観光産業の創出や回遊性の向上を図り、これまで中心市街地を単に通過していた来街者や外国人観光客をまちなかに呼び込み、滞留してもらう仕掛けづくりが重要となっている。



●姫路城



●好古園



●兵庫県立歴史博物館



●姫路市立美術館



●姫路文学館



●姫路市立動物園



●観桜会



●お城まつり

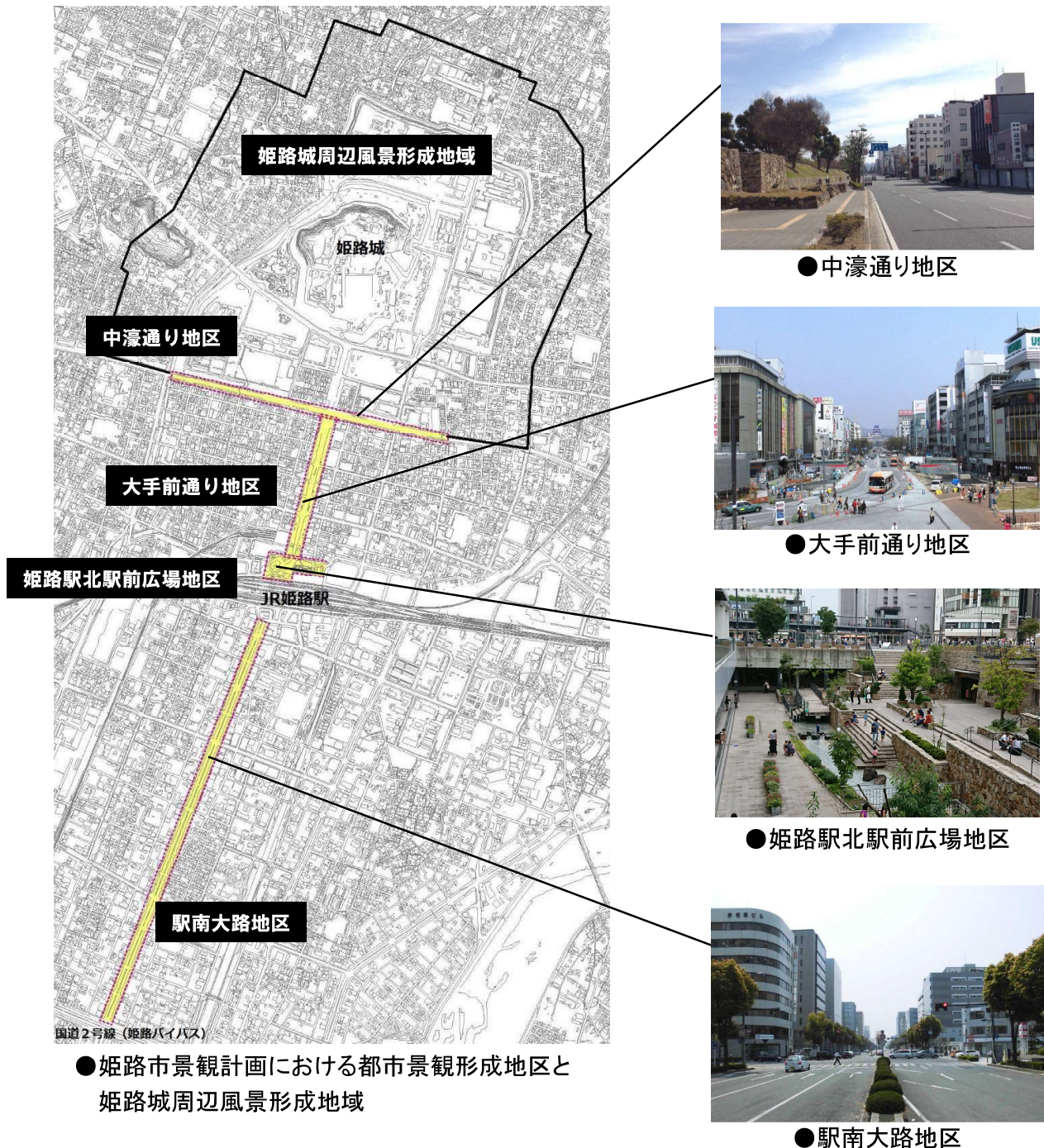


●姫路ゆかた祭り

②景観資源

本市では、まちのシンボルであり資産でもある姫路城を中心とした都市景観の保全や良好な景観形成に向けて、昭和62年3月に「姫路市都市景観条例」を制定した。その後、平成17年6月の「景観法」の全面施行により、法的な裏づけが付与されたことを受けて、平成19年に「姫路市景観計画」を策定し、平成20年4月1日より施行した。

景観計画の策定によって、これまで条例に規定していた大手前通り等の3つの道路沿道地区に加え、姫路駅北駅前広場地区を都市景観形成地区に追加指定したほか、姫路城周辺を新たに「風景形成地域」に位置付け、建築物や工作物の新築・増築等に対して、色彩や形態・意匠に関わる基準が厳格化されることとなった。



③社会資本

本市の中心市街地は、かつて姫路城の曲輪内に位置したことから、古くから碁盤の目状に道路が整備されていたが、太平洋戦争による戦災で大部分の市街地が焼失し、昭和20年代の大規模な戦災復興土地区画整理事業によって現在の姿となっている。同事業によって、当時としては先進的な広幅員街路である大手前通りが整備された。

大手前通りは「日本の道百選」にも選出され、本市のシンボルロードとしての重要な役割を担っている。沿道は業務機能等を中心とした利用がなされていたが、大手前通りの再整備を機に、人が滞留し、にぎわう魅力ある空間づくりに向けて、公共空間利活用に関する法制度等を活用した公民連携による、大手前通りのエリア価値の向上に取り組んでいる。

JR山陽本線南側では、同じく土地区画整理事業によって整然とした街区が形成されており、近年でも姫路駅南西地区や姫路駅周辺における土地区画整理事業が行われ、近代的なまちなみを呈している。姫路駅周辺の再開発事業に伴い、民間企業によるマンション建設が増加し、特に若い世代を含む居住人口が増加する等中心市街地の魅力が向上している。また、平成30年度には姫路駅南駅前広場再整備事業により、交通機能の利便性や景観が向上しており、今後はこれらを踏まえた姫路駅南駅前広場周辺のまちなみ整備事業により、新都市拠点としてふさわしい街区の形成が期待される。

中心市街地内の公園は、土地区画整理事業等によって計画的に配置・整備されており、居住人口の増加に伴い、子どもから高齢者まで多世代が利用できる公園となっている。

公共交通は、本市の中心駅となるJR姫路駅及び山陽電鉄姫路駅が存在し、市周辺部や他都市からの玄関口となっている。中心市街地内の移動はバスが中心となるが、利用者数は近年横ばいであった。このため、JRとバスの連絡定期券等に加え、姫路駅を中心とした1km圏内での路線バス「100円運賃制度」、100円で乗車できる「姫路城周辺観光ループバス」の運行等を実施している。

鉄道とバスの交通結節点となる姫路駅前では、前々計画でのJR山陽本線等連続立体交差事業、キャストィ21エントランスゾーン整備事業(駅前広場整備事業)、前計画での姫路駅南駅前広場再整備事業により、南北の一体利用が図られるとともに、公共交通によるアクセス性や利便性が飛躍的に向上した。

おもてなし空間としての役割を果たす姫路駅北駅前広場の整備、大手前通りの再整備等によって、市民のにぎわいや利活用の活性化に向けた環境が整い、多くのイベントが継続的に行われている。

こうして創出された高質なストックは、市民レベルでの自主的なまちづくりへの参加やまちなかの活性化を考えようとする動きにつながっている。今後はこうした取組みをエリアマネジメントの運営に向けた仕組みづくりへとつなげ、回遊や滞在を促し、民間活力を活用した持続的なまちづくりにつなげることが重要となっている。



●姫路駅南駅前広場

④産業資本

本市では、長い歴史を経て多くの地場産業・伝統工芸が形成され、皮革、乾麺、鎖、ボルト・ナット、菓子、明珍火箸等が特に有名であるが、主な生産拠点は中心市街地外となっている。

中心市街地とその外縁部には、播磨地域の中核都市として業務機能が集積し、信用金庫3社の本店をはじめ、大手企業の支店・営業所、全国紙の支局が置かれている。また近年では、本市の西に位置するたつの市、上郡町、佐用町で整備されている播磨科学公園都市の母都市として、先端科学技術に関連する産業集積を進めている。臨海部をはじめとする産業や播磨科学公園都市の研究開発機能の集積を背景に、キャストィ21イベントゾーンでも姫路市文化コンベンションセンターが建設され、これらの製品の展示や交流機能の具体化が検討されている。

さらに中心市街地では、「郊外農林水産物と連携した街なか活性化事業」が実施されており、郊外で営まれている農林水産業事業者と連携し、まちなかでの新たな交流とにぎわいを創出することを目的に、ひめじマルシェやえきまえ「御結び市」を開催している。



●姫革細工



●明珍火箸



●播磨科学公園都市